

生分解性マルチの効果確認(薄肉化)



6/5 慣行



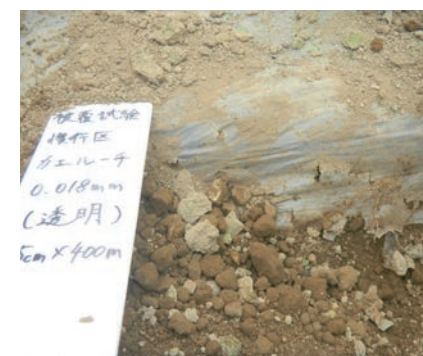
6/5 試験



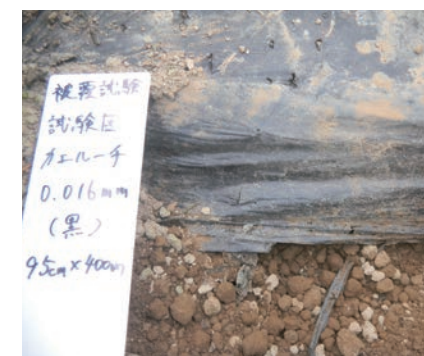
7/24 慣行(天面)



7/24 試験(天面)



9/4 慣行(土中)



9/4 試験(土中)

試験目的

生分解性マルチの効果確認(薄肉化)

試験作物 及び品種

南瓜(エビス)

試験資材 及び数量(規格)

カエル一チ(0.016mm×95cm×400m 黒・無孔)

慣行資材

カエル一チ(0.018mm×95cm×400m 透明・無孔)

栽培方法

播種日

6月8日

【栽植密度】 畝幅：400cm 株間：55cm

資材使用期間

5月30日～9月10日

試験区面積

380㎡
デントコーン栽培面積
6町です。

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

機械のテンションやスピードを変えることなく作業することができたため慣行品と比較しても遜色なかった。また、鋤き込み作業もスムーズに行えた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育状況・収穫時期・収量に差はなかった。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

両マルチとも展張から鋤き込みまでマルチが大きく破けることや裂けることはなかったため強度や崩壊性について遜色なかった。

1ヵ月半経過：両マルチとも地際(土中)で若干の分解が始まっていた。(分解スピードは同等)

3ヵ月経過：両マルチとも分解は始まっているものの、マルチとしての役割を最後まで保っていた。

(4)保温効果について

温度の計測は行っていないが、比較しているマルチの色が違うため、慣行品(透明)のほうが温度が上昇していると考えられる。

(5)雑草・病害虫の発生について

慣行品(透明)と比較すると、雑草抑制効果は試験品(黒)が高かった。

モニター感想

作業や強度の面の心配をしていたが、展張から鋤き込み作業まで慣行品と比較しても遜色なく作業を終えることができた。また、崩壊性についても途中破れることなく使用できたため問題なかった。

JA担当者の感想(青果課 西館 氏)

慣行品と比較しても播種から収穫時までの3ヶ月間、破れることなくマルチの機能を保つことができているため、薄肉化にしても問題ないことが分かった。また、薄肉化によって1割ほど製品重量が軽いため、作業面においてもメリットがあると感じる。

今後の使用について

継続して使用したい。
価格メリットが出てくると思うので使用したい。

将来希望する資材について

マルチの強度や機能が大きく損なわれないのであれば、コスト低減に向けて更に薄くすることも考えてほしい。また、生分解性マルチを1年や2年在庫した場合の強度について改善してほしい。